

竹林 章（林野庁研究普及課）
岡部 廣二（海外林業コンサルタンツ協会理事）
岩崎 薫（国際協力事業団林業水産開発協力部技術協力課長）
中島 清（森林総合研究所海外研究情報調査科長）
八木 久義（東京大学大学院農学生命科学研究科）

監 事 堀 正彦（林野庁木材流通課貿易対策室）

相葉 学（国際協力事業団林業水産開発協力部計画課長代理）

顧 問 田尾 秀夫（林野庁指導部長）

図書紹介

◎森と人のアジア—伝統と開発のはざまに生きる 講座 人間と環境 第2巻
山田 勇編 A5版 284pp. KK 昭和堂, 京都 1999.2 刊 価格 2,300 円+税

本講座の企画編集代表、福井勝義京大教授は巻頭に次のように述べておられる。本講座は、われわれを取り巻く身近な環境のあり方を地球的な視野をもって問いなおしていこうとするものである。本書はその趣旨に沿い、アジアの森に焦点を絞って編纂された第2巻であるが、まず序章で、本巻の編者がアジアの森から見た世界について述べられ、最後に、執筆を終えた各著者が総合討論を行って主題を締めくくっている。内容は、第1部：アジアの森空間—船づくりにみる森と海のかかわり（遅沢克也）、サラワク・イバンの森林利用（市川昌広）、神の森のゆくえ（阿部健一）、第2部：日本の森となりわい—共生時代の山利用と山づくり（加藤衛拡）、口熊野の山と村びと（成田雅美）、林業に生きる（小林直人）、第3部：森をめぐる新しい世界—「森に生きるカレン」と伝統の創造（速水洋子）、タイ森林の変遷（小池浩一郎）、森林社会への道（北尾邦伸）の3部9章（括弧内は著者、各章の副題は省略）からなる。各章は担当の著者がそれぞれに蘊蓄を傾けておられ、読み進むうちに、そこに描き出される森をめぐる世界に思わず引き込まれてしまう。現地調査に裏打ちされた豊富な内容を限られた紙数で紹介することは不可能であり、是非実際に読んで、著者たちが訴えていることを実感してほしいと思う好著である。森は fragile なものとよく言われるが、第2章の副題にもある「強い森」という捉え方は興味深く、読み終えて真意が理解できたように思う。実際、身の丈の技術で育てた森を21世紀に渡すことがわれわれに課せられた使命であろう。（浅川澄彦）